2025 年度

教職センター活動報告

・教職センターについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

・2025 年度「教職センター」の運営体制・・・・・・・・・・・ 2
　教職センターのメンバー
　教職センターの職務内容と担当教員

・2025 年度　教職センター活動報告・・・・・・・・・・・・・ 4～22
　諸プロジェクト

・教育実習校選定の指針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25～26

・「教職課程・日程表」（学生用）ガイダンスウィーク資料・・ 27

2026 年 2 月 4 日　作成

教職センターについて

【教職センター設置の目的】

教職センターは、平成 29（2017）年度教育学部教育学科創設に伴い、教員を目指す学生の総合サポートセンターとして設置された。教育学部教育学科等との密接な協力のもと、本学の教職課程及び教員養成に関する業務を充実させ、円滑な運営に資することを目的としている。

【教職センター概要】

初等・中等教員の使命は、子どもたちが、生涯にわたって自分の能力と可能性を最大限に高め、さまざまな人たちと協調・協働しながら、自己実現と社会貢献を図ることができるように、子どもたちが、自ら課題を発見し、それを解決できるよう導くことである。このように、子どもたちの思考力・判断力・表現力を育むために、課題探究型の学習、協働的学びなどがデザインできる、実践的指導力を有する教員こそ今求められている人材である。

しかし、実践的指導力は、教員志望の学生が、将来教育現場でキャリアを重ねるに伴って自然と身につけられるほど容易なものではない。将来教職に就いたとき、教科指導、生徒指導の職務を、著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を、大学の 4 年間で身に付けておく必要がある。

本学は、教師に必要な 5 つの能力・資質・スキル

①「国際的視野、教養・知性」
②「コミュニケーション能力」
③「カウンセリング・マインド」
④「専門的知識」
⑤「実践的指導力」）

を備えた「21 世紀に求められる教師」を、大学の授業と併設学校および地元の公立小学校、中学校、高等学校の教育現場での実践（インターンシップ）を通し育成している。

「教職センター」では、これらの資質能力を身につけるため、学生に対して個別の相談や指導を行う。また、教員になるための関門「教員採用試験」に合格するために、「教員採用試験対策講座」を開設し、教師への夢に挑戦する学生を全力でサポートする。

【教職センターの場所】

本学 4 号館 1 階

2025 年度 教職センターの運営体制

2025 年 4 月 1 日

【教職センターの組織】

・センター長　　土井
・副センター長　寺本、冨田
・センター委員　教育学部専任教員
・プレ会議委員　関係教員、(教務学生課)

【教職センタープロジェクトの担当委員】

1　教育実習プロジェクト

柏市担当（柏市教委との交渉）
茨城県担当
埼玉県担当
東京都担当

・教育実習先の斡旋・依頼、各種手続き等
・「教育実習の手引」、「教育実習日誌」の作成

2　インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト

2-(1)初等教育専攻：

・開智望小学校、開智小学校との継続連携
・開智所沢小学校との新規拡大、交渉

2-(2)中等教育専攻

・開智日本橋学園との継続連携
・その他の開智学園系列中学校、高等学校、中等教育学校との新規拡大、交渉

2-(3)中央区柏学園担当

2-(4)柏市との連携に基づくボランティア活動担当

・柏市放課後子ども教室（柏第五小学校ステップアップ学習会等）
・夏休み子ども体験教室
・その他のボランティア等

3　教員養成塾関係プロジェクト

3-(1)東京教師養成塾担当

3-(2)ちば！教職たまごプロジェクト担当

3-(3)千の葉の先生養成塾担当

4　基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト

企画

実務：教育学部教員全員

4-(1)基礎学力向上

日本語検定、TOEIC（英検）担当

4-(2)教員採用試験対策講座

初等（委託関係）担当

中等・国語担当

中等・英語担当

中等・社会科担当

学内模擬試験担当

5　民間企業・公務員（教員を除く）等を目指す就職指導プロジェクト

・キャリアセンターとの連携事業

6　「開智国際大学教職センター研究年報」関係プロジェクト

・「教職センター研究年報 2024」号の刊行

7　介護等体験関係プロジェクト

・社会福祉施設、特別支援学校での実施に向けての準備等

・介護等体験ガイドブックの作成

※教職センターにおける学習支援について、ラーニングコモンズ的な機能充実に向けての検討

※教職課程自己点検・評価

2025 年度　教職センター　活動報告

１　プロジェクト名〈**教育実習プロジェクト**〉

活動内容

１．ねらい

【学生に対して】

・教育実習に必要な環境整備を行う。教育実習に参加する学生の希望と資格の把握等、教育実習に向けての学生の状況の把握を行う。教育実習の実施に向けて、学生の指導を行う。

【教員に対して】

・教育実習についての情報提供と実習実施への具体的な働きかけを行う。

【教育委員会に対して】

・教育実習協力校についての状況確認と新たな実習協力校の開発を行う。

・情報交換を通して緊密な協力体制を築き、本学の教育委実習体制について理解を得られる用意する。

【教育実習予定校に対して】

・教育実習を希望する学生が、教育実習を行うために教育実習校への依頼等の必要な対応を行う。

２．実施内容

【全体的な仕事として】

・柏市教育委員会、開智学園各学校、その他教育実習実施校との連絡を行う。

・教員と教務学生課との連絡体制を調整する。

【1 年生に対して】

・4 月のガイダンスにて、教育実習関係についての事務的なスケジュールの通知を行う。

【2 年生に対して】

・教育実習についてのアンケートを行い、教育実習についての資料を得る。

・母校で教育実習を行う学生の依頼状況を把握し、教育実習の依頼を補助する。

【3 年生に対して】

・教育実習の参加資格の確認とその地王を行い、教育実習校の配置案を作成する。

・実習実施に向けて指導を行う。柏市内小学校は、３年次の教育実習に向けて個別指導を行う。

【4 年生に対して】

・教育実習の実施と個別指導を行う。

３．2026 年度に向けて

柏市の新たな教育実習は、2 年目となり理解も深まり円滑な教育実習が行われるようになってきた。2026 年度の 3 年生は、人数が増えるため教育実習校を新たに確保する必要があると考えられる。

2025年度　教職センター　活動報告

2-（1）プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉
（初等教育専攻）

活動内容

１．ねらい

学校の教育現場を観察したり参加・実習したりすることで、教員の仕事をより理解するとともに子供との関わり方を学び、教員になりたいという意欲を高め、自分なりの課題をもつ。

２．実施内容

（１）学校ボランティア等

① 教育実習予定校

【３年生対象】

・今年度も引き続き教育実習予定校（内諾を得た小学校）と相談しながら、後期以降、週１日のペースを目安に、学校ボランティアに取り組んだ。

② 併設小学校

【全学年対象（中等教育専攻を含む)】

・併設校の要請に基づき、学校ボランティア等に取り組んだ。

・一昨年度より中等教育専攻の学生も小学校教諭二種免許状が取得できるようになったことを踏まえ、全学年、中等教育専攻の学生を含めてボランティアを呼び掛けた。

〇開智望小学校

・学校説明会等での学生サポート

ボランティアの内容は、学校説明会が行われている間、入学予定幼児等を各教室に集め、様々な活動、ワークショップ等をさせる教員の補助。

令和７年４月 19 日（土）６名

令和７年７月 ５日（土）６名

令和７年８月 23 日（土）７名の学生が参加した

〇開智所沢小学校

・学校説明会等での学生サポート

ボランティアの内容は、学校説明会での来場者誘導、幼児向けワークショップ補助など

令和７年６月 28 日（土）５名

・入学試験に伴う学生サポート

ボランティアの内容は、入学試験に伴う受験者誘導・採点サポート等。

令和７年９月 20 日（土）10 名

〇開智所沢中等教育学校

・入学試験に伴う学生サポート

開智所沢中等教育学校入学試験のサポート業務、試験監督補助、来場者誘導、試験問題と答案用紙

の配布・回収など

令和８年１月 10 日（土）開智所沢中等教育学校会場　12 名
令和８年１月 11 日（日）開智所沢中等教育学校会場　 4 名
令和８年１月 12 日（月）開智所沢中等教育学校会場　 6 名
令和８年１月 12 日（月）河合塾南浦和現役館会場　　 5 名
令和８年１月 15 日（木）開智所沢中等教育学校会場　 6 名
令和８年１月 15 日（木）河合塾南浦和現役館会場　　 5 名

（２）学校公開授業の参観（開智望小学校）

令和７年９月 17 日（水）、６名の学生が参加した。

※ ７名が参加予定であったが、当日１名欠席した。

（３）集中インターンシップ

ねらいは、１週間（4 日）連続で勤務することで、小学校教育及び学校そのものの全体を知り、教員という仕事の全体像、イメージを掴んで教職への意欲を高めようとするものである。

令和８年２月 24 日（火）～2 月 27 日（金）、11 名の学生が参加した。

３．2026 年度に向けて

１・２年生は学生数が増えているにもかかわらず、学校ボランティアやインターンシップに参加する学生は少ない。入学時には、本学を選択した理由の一つとして「併設校での学校ボランティアやインターンシップ」を挙げる学生は多い。にもかかわらず、実際には参加しないという実態である。学校ボランティアやインターンシップに参加するには、髪の色や身に付ける装飾品等に制約がある。それらの制約が参加しない理由の一つであるとも言われている。教職を学ぶ学生の意識を高めていくことが必要である。

2025 年度　教職センター　活動報告

2－(2)　プロジェクト名〈インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト〉（中等教育専攻）

１．ねらい

1 年：さまざまな経験を通じて、＜職業としての教員＞を知り、理解する。教員になりたいという意欲を高め、各自の課題を発見する。

2 年：教科に特化したさまざまな経験を通じて、教育と教員の現状を理解する。課題を意識しながら、自分なりの教師像をつくる。

２．実施内容

【対象学年】1 年・2 年

【実施校】開智日本橋学園中学・高等学校

【活動内容】

6 月 11 日（水）　2025 年度インターンシップ学生対象説明会
6 月 25 日（水）　9 月期インターンシップ説明会、学生プロフィール作成
7 月 23 日（水）　9 月期インターンシップ直前説明会（キックオフミーティング）
9 月 4 日（木）、5 日（金）、16 日（火）9 月期インターンシップ（@開智日本橋）
計 15 名参加（学年別：1 年生 14 名、2 年生 1 名）
（専攻別：国語 5 名、社会 7 名、英語 3 名）
9 月 16 日（火）～　9 月期インターンシップ振り返り
10 月　8 日（水）　「開橋祭見学」直前説明会
10 月 11 日（土）　「開橋祭」見学（@開智日本橋）1 年生 7 名参加
12 月 10 日（水）　2 月期インターンシップ説明会・学生プロフィール作成
1 月 14 日（水）　2 月期インターンシップ説明会
2 月　2 日（月）　2 月期インターンシップキックオフミーティング　計 43 名参加予定
（学年別：1 年生 40 名、2 年生 3 名）
（専攻別：国語 16 名、社会 22 名、英語 5 名）
2 月 16 日（月）～20 日（金）　2 月期集中インターンシップ（@開智日本橋）
2 月 20 日（金）～　インターンシップ振り返り

今年度は中等専攻の学生数が多く、全員を開智日本橋で受け入れるのは難しいこと、中等専攻の学生すべてが教員を目指しているわけではないことから、希望制にした。また開智日本橋側からも、9 月の実施では、フィールドワークに行く学年が多く、不在の期間が長くなるため、特に 1 年生は 2 月に見学してほしいという要望があったため、それを踏まえた募集形態となった。

３．2026 年度に向けて

次年度も中等専攻の学生数は増加する見込みである。そのため、開智日本橋以外の実施校を探すことは早急に対応する必要がある。また、教職論などの授業の一環としての位置づけになる可能性もあり、そうなると、中等専攻の学生すべてがインターンシップに参加することになるため、実施時期や受け入れ校の調整、不参加だった場合の対応などが必要になってくるため、担当者同士で連携しながら、決めていきたい。

2025 年度　教職センター　活動報告

２－(3)　プロジェクト名〈 **インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト**〉
（中央区柏学園）

活動内容

１．ねらい

教職実務の経験を積むための入門として、学校現場における体験・ボランティア活動に取り組むことにより、学校現場や教員の仕事に対する理解を深め、教員の資質を高めることを目的としている。

具体的には、中央区立小学校の児童が自然体験や共同生活を体験する移動教室「セカンドスクール」での研修や、農作物の収穫等の活動への参加を通じて、学生が実地における体験活動・ボランティア活動を行い、教職に対する理解を深める機会とすることを想定している。

２．実施内容

（１）年間活動内容

月/日	事項	内容
4	ボランティア活動参加依頼	中央区教育委員会へメールにて 「柏学園でのボランティア活動参加依頼」
4/4	挨拶	柏学園へメールにて 本年度のボランティア活動について
4/9	表敬訪問・打ち合わせ	柏学園にて ボランティア実施日について打ち合わせ
4/16	前期ボランティア打ち合わせ	教職センターにて 前期ボランティア業務の内容・担当確認
4/22	前期ボランティアに関する連絡	１年生から４年生へメールにて説明会周知
5/7	前期ボランティア 活動説明会・希望日調査	4210 教室にて グーグルフォームにて応募開始 教務学生課に欠席事由書・麻疹証明書確認等の依頼
6/4・5・18	前期ボランティア活動	柏学園に人数の連絡 １週間前を目安にボランティア数を報告 ボランティア当日の引率・帰校時の対応等
7/2	前期ボランティアの総括	教職センターにて 前期総括・後期ボランティア実施日・担当確認
7/9	前期お礼	柏学園に前期活動のお礼と後期活動のお願いのメール
9/12	後期ボランティアに関する連絡	１年生から４年生へメールにて

9/18	後期ボランティア 活動説明会・希望日調査	教職センターにて グーグルフォームにて応募開始 教務学生課に欠席事由書・麻疹証明書確認等の依頼
9/30	後期ボランティアに関する連絡	柏学園に人数の連絡 １週間前を目安にボランティア数を報告
10/16・23	後期ボランティア活動	ボランティア当日の引率・帰校時の対応等
11/19	来年度に向けて	担当係　振り返り
3/未定	来年度に向けて	学園長と打ち合わせ予定

（２）参加者内訳

活動日	学校名	申込数	欠席数	参加数
6 月 3 日（火）午前	城東小学校	1	1	0
6 月 4 日（水）午前	泰明小学校	3	0	3
6 月 4 日（水）午後	明正小学校	3	0	3
6 月 5 日（木）午前	明正小学校	1	0	1
6 月 18 日（水）午前	常盤小学校	3	0	3
6 月 18 日（水）午後	日本橋小学校	2	0	2
10 月 16 日（木）午前	銀座中特別支援学級	2	1	1
10 月 23 日（金）午後	明石小・月島第二小特別支援学級	3	0	3
	計	18	2	16

３．2026 年度に向けて

①ボランティア活動日・活動回数・活動時間・内容について

・柏学園の利用が一泊での利用が主となったため、柏学園での生徒たちの活動時間・活動内容に変化が生じ、午前と午後の活動を行うことができるようになった。

・コロナ禍も落ち着き、コロナ前のような飯盒炊飯活動が再開されるようになった。

②参加人数について

・全８回のボランティア活動に、延べ 16 名が参加した。

・専攻別の内訳は、中等 10 名（英語２・国語１・社会７）、初等４名であった（前期後期参加１名・両日参加１名）。学年別内訳は、1 年生の参加が前期９名・後期０名、２年生前期３名・後期３名（前後参加１名）、３年生・４年生前期後期ともに０名であった。

③その他

・前年度同様に、説明会にてボランティア活動希望日を同時に行った。その結果、連絡事項等の周知の徹底を図ることができた。

・ボランティア活動の参加が年々減少していること。ビブスと名札の返却日を徹底することが課題である。

2025年度　教職センター　活動報告

２-（4）　プロジェクト名〈**インターンシップ・ボランティア活動検討プロジェクト**〉
（柏市ボランティア活動）
【柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会　柏市立柏第五小学校）等】

活動内容

１．ねらい

柏市教育委員会が実施する「放課後子ども教室（ステップアップ学習会）」、「夏休み子ども教室」、及び、柏市こども部が実施する「かしわこども未来学習会」に、希望する学生が参加することで、教員としての資質を向上させることをねらいとする。

・柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会）は、子ども達の学習意欲の向上と学習習慣の定着を目的として柏市内の小学校で実施されている放課後の学習会である。学生は、本学近隣の柏市立柏第五小学校において、学習アドバイザーとして参加するもの。
・「夏休み子ども教室」は、放課後子ども教室の一環として柏市教育委員会が主催する、子ども達の知的好奇心を引き出す機会を提供するもの。
・かしわこども未来学習会は、小中学生（小学4年生～中学2年生）を対象に、学校の宿題などの学習サポートやイベントなどを通した生活支援を行う事業である。学生は、市役所に直接申し込み面接を受け、スタッフやボランティアとして参加するもの。

２．実施内容

【柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会　柏市立柏第五小学校）】

４月　柏市アフタースクール課との事前の連絡・調整、及び学生に向けての情報提供と学習アドバイザー希望者の募集をかけた。

・令和7年4月7日（月）　柏市アフタースクール課から正式に協力の依頼。
　柏市立柏第五小学校の2年生及び3年生対象
　木曜日の13時40分から14時40分（年間19回予定）
　開講日（第1回ステップアップ学習会）は、令和7年5月29日（木）
・令和7年4月ガイダンスウイークにて、学生への情報提供。
・令和7年4月25日（金）、学生への呼び掛け・募集。
　※応募者が少なく、5月12日（月）に再度募集を掛ける。
　応募者は、14名。（前期のみ協力できる学生6名、後期から2名）
　※通年できる学生が少なかった。
　応募者リストを作成し、柏市アフタースクール課に送付。

５月　学生向けガイダンス及び学習アドバイザー登録会を開催した。

・令和7年5月20日（火）12：15～12：50
　柏市アフタースクール課担当職員を招き、事業説明と学習アドバイザーとしての心得等を直接話していただくとともに登録会を行い、14名の学生が登録手続き等を行なった。

６月～２月　ステップアップ学習会の学習アドバイザーとして活動した。

・開催が予定された木曜日（年間 19 回）

13 時 10 分～15 時 10 分（準備、後片付け、反省会等含む）

※ 第１回 令和７年５月 29 日（木）～第 19 回 令和８年２月 26 日（木）

・学習アドバイザーとして参加した学生は、毎回「学校ボランティア・インターンシップノート」に記入し振り返りを行い、土井に報告した。

３月　柏市アフタースクール課担当職員と今年度の活動を振り返った。

【夏休み子ども教室（柏市生涯学習課主催）】

４月　柏市生涯学習課からの連絡、打合せ

・令和７年４月 17 日（木）　柏市生涯学習課から正式に協力の依頼。

７月～8 月　環境ゼミ・理科教育班、教職深化プロジェクト、
国語ゼミの協力を得て、以下の講座を子供たちの夏休み中に開催した。

○「宇宙から来た謎の物質～“ウーブレック”の性質を調査せよ！」（環境ゼミ）

日時：令和７年７月 29 日（火）　10 時 00 分～11 時 30 分　※ 中央公民館

対象：小学校１年生～6 年生

内容:謎の物質ウーブレックを調べ、その性質について話し合い宇宙船を設計します。

○「化学反応「Chemical Reaction」（環境ゼミ）

日時：令和７年７月 29 日（火）　13 時 30 分～14 時 45 分　※ 中央公民館

対象：小学校１年生～6 年生

内容：三種類の物質をビニール袋の中で混ぜて、化学反応を観察して理解します。

○「作って遊ぼう」（理科教育班）

日時：令和７年７月 30 日（水）　10 時 00 分～11 時 15 分　※ 中央公民館

対象：小学校１年生～3 年生

内容：二重ふりこの「動くおもちゃ」、偏光シートを使った「マジック道具」を作って遊びます。

○「いろいろなモーターづくり」（理科教育班）

日時：令和７年７月 30 日（水）　13 時 30 分～14 時 45 分　※ 中央公民館

対象：小学校４年生～6 年生

内容:身の回りのものを使って、モーター（電気で回転するもの）三種類製作します。

○「算数の図形で作品を作ろう！」（教職深化プロジェクト）

日時：令和７年７月 30 日（水）　10 時 00 分～11 時 30 分　※ 中央公民館

対象：小学校１年生～6 年生

内容:紙やストロー、タブレットで図形作品を作ります。調べて作って楽しみましょう。

○「今日ここで終わらせたい！読書感想文」（国語ゼミ）

日時：令和７年８月８日（金）　10 時 30 分～11 時 30 分

※ さわやかちば県民プラザ

対象：小学校４年生～6 年生

内容：夏休みの最大のかべ！読書感想文を大学生と一緒に乗りこえちゃおう！

【かしわこども未来学習会（柏市内の公共施設)】

4月　ガイダンスウィーク等において、本事業の内容、応募の方法等について呼びかけた。

・希望する学生は、柏市ＨＰより直接申し込むよう伝えた。

３．2026 年度に向けて

柏市立柏第五小学校で実施されてきた「柏市放課後子ども教室（ステップアップ学習会)」は、来年度より柏市のアフタースクール事業（外部委託）に統合される形となる。これまで年間 19 回の活動であったものが、基本的には平日、長期休業日等を含めて毎日実施されるようになる。大学生がボランティアとして活動できる機会、要請があるのか、今後外部委託業者と話し合うことになる。いずれにしても新しい形としてスタートする。それに対応する形で学生のボランティアとして学ぶ機会を確保していきたい。

また、「夏休み子ども教室」については、学生の有志による団体がボランティアとして参加できるよう学生に働きかけていきたい。

2025 年度　教職センター　活動報告

３-（1）　プロジェクト名〈　東京教師養成塾　〉

活動内容

１．ねらい

社会の変化や子供・保護者の願いを的確に捉えられるよう、豊かな人間性と実践的な指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するという東京教師養成塾の目的に応じて、大学教育における理論と、養成塾における実践を往還させ、学校が求める実践的な指導力を有した教員を養成・輩出するとともに、他の学生への意欲付けと情報提供の一助とする。さらに、東京教師養成塾連携大学として、東京都教育委員会とのつながりを保ち、東京都教員採用試験を受験する学生への情報提供等に資する。

※東京教師養成塾は令和 8 年（2026 年）度募集 第 24 期生をもって終了。（令和 9 年度新規募集停止）

２．活動報告

（１）東京都教師養成塾担当として東京都教育委員会との連携に関する職務

① 東京都教育委員会と連携大学との連絡会出席（年間 3 回）

2025 年度第 3 回：7 月、2026 年度に向けて第 1 回：11 月、第 2 回：2026 年 3 月

② 東京教師養成塾に関する初等教育専攻 1・2 年生への広報・周知活動,　※説明会、公開講座の紹介

（２）第 22 期塾生に係る業務 **（参考：該当者がいなかったため参考）**

① 特別教育実習（指定校）担当教員への連絡、連携

② 塾生の所属ゼミ担当教員との連絡調整、連携

③ 指定校との連絡・訪問補佐

（３）1・2 年年生への広報・周知活動

① 4 月当初 1 年ゼミ、2 年ゼミのガイダンスで東京教師養成塾について資料配付・説明

② 3 年生入塾希望者との相談、選抜に関する対策　等

（４）第 23 期塾生に係る業務 **（参考：該当者がいなかったため参考）**

① 第 23 期塾生募集、選抜

〇3 年生に周知を行い、入塾希望者募集：４月

〇説明会・公開講座への学生参加要請希望者との面談

〇学内選抜を経て応募書類の作成・提出（志願表、面接票等）：６月上旬提出（デジタル出願）

〇23 期塾生選抜：7 月 7 日：筆記試験(専門教養・論文)、7 月下旬：個人面接

② 23 期生入塾者決定後の対応（参考：該当者がいなかったため参考）

〇特別教育実習（指定校）担当教員決定

〇特別教育実習指定校決定　※電話連絡

〇特別教育実習担当教員との連絡調整、連携

〇指定校への訪問（特別教育実習担当）補佐

３．来年度の見通し

※第 24 期生で事業終了となるため、例年のような１・2 年生への広報は行わない。

（１）第 24 期塾生に係る業務　令和 8 年（2026 年）11 月入塾～令和 9 年（2027 年）10 月終了

① 第 24 期塾生募集、選抜

〇3 年生に周知を行い、入塾希望者募集：４月

〇説明会・公開講座への学生参加要請希望者との面談

〇学内選抜を経て応募書類の作成・提出（志願表、面接票等）：６月上旬提出（デジタル出願）

〇24 期塾生選抜：7 月初旬？：筆記試験(専門教養・論文)、 7 月下旬？：個人面接

② 24 期生入塾者決定後の対応

〇特別教育実習（指定校）担当教員決定

〇特別教育実習指定校決定　※電話連絡

〇特別教育実習担当教員との連絡調整、連携

〇指定校への訪問（特別教育実習担当）補佐

４．「Tokyo 未来教師アカデミア」事業への移行

〇事業へのエントリー意向についての検討

４　Tokyo未来教師アカデミア　大学連携プログラム

①アウトリーチ型講座	概　要	大学から要望があったテーマで講義・演習・協議等を実施
	対象学年	相談の上決定
	テーマ（例）	・保護者対応の実際（未然防止策・事例含む） ・４月からの学級経営、組織的な対応 ・教職員との関係づくり ・通常の学級における特別支援教育 ・メンタルヘルスマネジメント、レジリエンスの高め方 ・教員の魅力 ・都の教育施策 ・個別相談会　等
	時間･回数	相談の上決定（授業内外での実施、シリーズ実施も可）
	時　期	令和８年度は９月～２月
	実施規模	令和８年度は連携大学から希望する10大学程度
	指導者	指導主事、養成塾教授を複数人派遣

４　Tokyo未来教師アカデミア　大学連携プログラム

②学校インターンシップ	概　要	小学校・特別支援学校でのインターン
	対象学年	主に大学１～３年生（相談の上決定）
	内　容	・授業見学 ・授業、給食、清掃指導補助 ・講話　等
	日　数	受入れ校の状況を踏まえ、相談の上決定
	人　数	令和８年度は連携大学から推薦があった学生　10名程度
	期　間	令和８年度は９月～３月（R10からは通年）
	指導者	養成塾教授

2025 年度　教職センター　活動報告

３－(2) 及び (3) プロジェクト名〈　ちば！教職たまごプロジェクト　千の葉の先生養成塾〉

活動内容

１．ねらい

「ちば！教職たまごプロジェクト」は，公立学校教員を志望する大学生，短期大学生及び大学院生を対象に，千葉県教育委員会教育事務所地区ごとの研修会や，県下の小学校，中学校，義務教育学校，特別支援学校（県立及び市立）での実践研修等を体験する機会を提供することにより，教職への理解を深め，教員としての資質・能力を高めるとともに，採用後の教職員研修との円滑な接続の実現を目的としている。具体的には，学生が個人の資格で県教委に研修希望届けを出し，採用されれば，①学級担任の補助，②学校行事の補助，③学校維持管理の補助，④PTA 活動，保護者会活動の体験等の実践研修を受ける。

２．実施内容

本学学生の 2025 年度の本研修への参加者は 23 名（3 年 14 名，4 年 9 名）であった。

2026 年度の募集及び採用決定は 2025 年度内に実施されているため，以下では 2025 年度内の取り組みを報告することにする（ただし，本学学生にかかわる部分のみ)。

①研修対象者

大学３・４年生を対象とし，就職先として公立学校教員（必ずしも千葉県・千葉市を志望する学生でなくてもよい）を志望し，小学校あるいは中学校教諭普通免許状を所有又は取得見込みの者。

②活動回数等

原則として年間を通して活動ができ，１日単位で２０回以上の実践研修が可能な者。

なお，2026 年度募集にあたって，次の変更があった。

・旧：大学３年生から参加する場合は，原則２年間継続することとする。→新：大学３年生から参加する場合は，２年間継続も可とする（大学 3 年からは「1 年間のみの参加でも可」というルールの変更)。

・大学４年生から参加する場合は，１年間とする（変更なし)。

③募集人員

1700 名程度（小学校，中学校，義務教育学校：1520 名程度，特別支援学校：180 名程度）

④受付期間

2025 年 11 月 17 日（月）から令和 2025 年 12 月 8 日（月）午後５時まで

⑤申し込み方法

申込については，申請者が申込書を作成し，インターネットを経由して提出する。

⑥研修実施期間

2026 年 5 月 18 日（月）から 2027 年 3 月まで

上記の研修を受け，所定の要件を満たした学生については，千葉県公立学校教員採用候補者選考試験に

おいて，第１次選考で研修を受けていることを志願書に書くことができる。

【新規事業】「ちば！教職たまごプロジェクトライト（たまプロライト)」(2026 年度から)

大学 2 年生を対象とした新規プロジェクトであり，以下のような条件が設定されている。

・大学 2 年生を対象とする。

・原則として，年間を通して 1 日単位で 10 回程度（1 か月 1 回程度）の研修を行う。

・たまプロライトに参加することによる優遇措置は特になし。

2025 年度は，4 月のガイダンス期間に 2 年生を対象としてたまプロに関する説明会を実施した。

その後，11 月 7 日（金）に開催された千葉県教委主催の 2026 年度に向けての説明会（オンライン会議）に参加し，新しく得られた情報をもとに，11 月 19 日（水）に 2 年生を対象にした説明会を実施した。なお，たまプロライトに関しては，ポスター掲示のみを行い，電子申請する場合はたまプロ担当者（竹内）に必ず事前に相談することを付記した。

３．2026 年度に向けて

2026 年度の本研修に申し込んだ学生は，2 年生 5 名（初等 4 名，中等社会 1 名），3 年生 13 名（初等 11 名，中等国語 1 名，中等社会 1 名）であった。

2025 年度の研修に取り組んだ学生の実態報告を聞いてみると，配属校によって研修内容が異なるため一概に評価はできないが，きわめて有意義な研修をしているとのことである。

本学においては，教員志望学生に研修の機会を与え，教職に対するモチベーションを上げると同時に，教員採用試験における優遇措置を有効に活用するためにも，今後も積極的に参加を呼びかけたい。

４．付記：「千の葉の先生養成塾」について

千葉県教委は，2024 年度から「千の葉の先生養成塾」を開設した。この制度は，千葉県・千葉市の公立小学校の教員になることを第一希望にしている大学３年次生のうち，本年度「ちば！教職たまごプロジェクト」に参加していること，次年度も確実に参加する学生を対象に，学長あるいは学部長が責任を持って推薦する 50 人程度を選抜するというものであり，希望者は選考に合格すると，「千の葉の先生養成塾特別選考」の志願対象になり，教員採用試験の第 1 次試験が免除される。本学からは，1 名の入塾希望者があった。当該学生は，推薦要件を満たしていたため学長推薦を受け，選抜試験を受験し，合格した。

2025年度　教職センター　活動報告

４　　プロジェクト名　〈**基礎学力向上・教員採用試験対策プロジェクト**〉

活動内容

１．ねらい

都県が実施する教員採用試験の合格を目指して、必要な基礎学力の向上を図りつつ、一般教養、教職教養、専門教養、論文、面接等の試験に合格する実力をつける。

２．実施内容

【４年生対象】

・４月ガイダンスウィーク中に、今年度実施される教員採用試験に向けての講演会を開催した。（講師：時事通信出版　野口様）

・４月中旬に、千葉県教育委員会の協力を得て、教員採用試験に向けた説明会を開催した。

・４月から７月上旬（１次試験まで）は、教員採用試験予想問題、模擬面接、模擬論文に取り組んだ。

・７月下旬から８月中旬（２次試験前々日まで）は、１次試験合格者を対象に、２次試験対策として、２週間の集中講座を開催した。

【３年生対象】

小学校・中学校教員コース共通

・5月～7月、9月～12月に教職教養関係科目の教員が、過去問や教職センターのテキスト等を利用し、工夫して対策のための講座、勉強会等を開催した。

・3月に教職教養の集中講座を全6回開催した。（外部委託：時事通信社）

・年間３回（7月・9月・3月）に校内テストを実施し、教員採用試験の模擬テスト（過去問など）に取り組み、指導と対策に生かす。3月は学生の受験自治体に合わせた問題を実施した。

小学校教員コース

・5月～7月、9月～12月に、週１回、小学校専門を中心に全20回程度の講座を開催した。特に学生が苦手な理数教科を重点的に取り組んだ。3月に算数・数学、理科に特化した集中講座を全6回開催した。（外部委託：時事通信社）

中学校・高等学校教員コース

・5月～7月、9月～12月に関係科目教員が、過去問や教職センターのテキスト等を利用し、工夫して対策のための講座、勉強会等を開催した。

中等英語は4月～7月の水曜2限、9月～1月の月3限に英語担当教員が、過去問や専門科目強化のための教材を使用し、全30回の勉強会を開催した。

中等国語は、4月～7月に全10回（模試2回、漢文3回、古文2回、現代文3回）国語担当教員が勉強会を開催した。

中等社会は、4月～7月の木曜5限、9月～1月の金曜3限を中心に社会担当教員が、過去問や各専門分野に適した教材を用意し、全30回の勉強会を開催した。

【１・２年生対象】

・総合ゼミⅠ・Ⅱと連携を図りながら通年を通して、教員採用試験の前提となる基礎学力の向上を図るため、日本語検定及びTOEIC（英検）の以下の受検に向けて学習に取り組んだ。今年度より、総合ゼミ内で英検IBAの受験と対策講座4回を実施した。

初等教育専攻の学生にあっては、日本語検定３級、TOEIC550点（英検２級）

中等教育専攻（国語科）の学生にあっては、日本語検定２級、TOEIC550点（英検２級）

中等教育専攻（英語科）の学生にあっては、日本語検定3級、TOEIC730点(英検準１級)

中等教育専攻（社会科）の学生にあっては、日本語検定２級、TOEIC550点（英検２級）

３．2026年度に向けて

・ 外部委託の前期・後期に開催される初等の教員採用試験対策講座の参加の参加人数や途中から来なくなることへの対策をしたい。また、学生の希望として社会を入れてほしいという希望もあるため、希望調査等を取り、開催教科を検討することを検討したい。

2025年度　教職センター　活動報告

５　プロジェクト名〈民間企業・公務員(教員を除く)等を目指す就職指導プロジェクト〉

活動内容

１．ねらい

キャリアセンターと連携し、民間企業及び教師を除く公務員を目指す学生のサポートを行う。また、教員採用試験の受験と民間企業への就職活動を二本立てで検討する学生についてもキャリア支援を行う。学生自身が広い視野を持ち、自主的に自らの進路を決められるように支援を行う。

２．実施内容

2、3学年ガイダンス時（2025年4月3、4日）に、教職以外の就職を検討している学生に対して、キャリアセンターからの連絡が受け取れるように、キャリアセンターのLINE及びQRコード(進路希望調査)の登録を促した。その後も継続して教職以外の就職を希望する学生の把握に努め、対象学生にキャリアセンターの利用を促し、スタッフとの面談、インベント活動への参加を促した。また、教職センターとキャリアセンターとの各学年の進路情報の共有時期を明確にし、学生へのキャリア支援体制の向上に努めた。

【キャリアセンター各種活動】

(1)就活予備校（木曜5限）

4月17日：第１回　就活を始める準備（12名参加）

4月24日：第２回　インターンシップの探し方（10名参加）

5月 8日：第３回　履歴書・ESの書き方（6名参加）

5月16日：第４回　OB・OGセミナー（教育学部OB登壇、11名参加）

5月22日：第５回　面接力とマナー（3名参加）

6月12日：第６回　スタートアップセミナー（就活早期化対応）（10名参加）

(2)ミニランチ・ガイダンス（昼休み）

4月24日：資格ガイダンス（1名参加）

5月28日：公務員ガイダンス

(3)業界研究会（木曜5限）

11月13日：第１回　三菱地所ホテルズ＆リゾーツ、第一勧業信用組合（8名参加）

11月20日：第２回　カナデン（三菱電機グループ)、DXCテクノロジー・ジャパン（5名参加）

11月27日：第３回　ベルーナ、ANAエアポートサービス（7名参加）

(4)仕事研究イベント

6月28日：TOKYO SUMMER CAREER FORUM 2025見学ツアー

11月14日：ZOZOツアー（1名参加）

12月20日：TOKYO WINTER CAREER FORUM 2025見学ツアー

(5)証明写真撮影会

5月22日（10名利用）

(6)資格受験の案内

8月7日：TOEIC-IPテスト
2月3日：TOEIC-IPテスト
2月5日：1日完結型MOS講座

３．2026年度に向けて

キャリアセンターの利用環境がセンタースタッフの尽力により向上しており、教育学部ではキャリアイベントの参加同様、おもに民間就職を目指す3学年が積極的に活用することができている。近年、就職活動の早期化が進んでおり、2学年がキャリアセンターを利用する流れをつくっていきたい。また、教職センターとキャリアセンターとの学生進路情報の共有を適切な時期に行うことで、教員採用試験の受験と民間企業への就職活動を二本立てで検討する学生の継続的な把握に努め、学生にとって必要な支援を行っていきたい。また、学校教育現場に関わる民間業種が増えており、こうした職種の案内の周知にも努めたい。

2025 年度　教職センター　活動報告

６　プロジェクト名〈「開智国際大学教職センター研究年報」〉

活動内容

１．ねらい

教職センターの活動内容を「教職センター活動報告」「プロジェクト報告」として総括し、併せてセンター員による研究成果としての論文・報告等の掲載を目的として「開智国際大学教職センター研究年報 2025」（以下「年報 2025」と略称）を刊行する。

２．実施内容

(1)「年報 2025」の発行

① 発行予定日：2026 年 3 月下旬

② 内容：2024 年度教職センター活動報告、センター員の研究論文２、報告２、資料集（「教職センター2024 年度 議事録」）、刊行規定・投稿規定

③ 刊行媒体：紙媒体のみ

④ 印刷・発行部数：200 部　　予定頁数：74 頁/1 部

⑤ 予定送付先：教職課程を有する近隣大学および柏市立小中学校等の 99 教育関係機関

⑤ 予算申請額：150,000 円

⑥ 印刷所：協和印刷工業株式会社（予定）

⑦ 業者見積額：依頼中（2026 年 1 月 31 現在）

(2)「年報 2025」発行に向けた 2025 年度の活動

4 月　・「開智国際大学教職センター研究年報 2024」発行の振り返り

・「刊行規定」の確認、「投稿規定」改定の検討、「年報 2025」の発行日程について決定

・「投稿規定」の改定を検討、結果および「年報 2025」の内容及び発行日程を第 2 回センター会議にて報告

9 月　・第 6 回センター会議にて、「研究論文」「報告」の原稿募集及び「投稿事前申し込み」の案内、申し込み期日を 11 月 5 日、原稿の締め切りを 2026 年 1 月 24 日として報告。同日、メールにて申込書を送信

・センター長に「2024 年度教職センター活動報告」の原稿について相談、センター長に一任

・「年報」専用アドレス宛で「投稿事前申し込み」の受付開始

・「年報 2025」用各種原稿の専用テンプレートの書式を確認、作成を図書館事務局（「年報」）に依頼

11 月　・「投稿事前申し込み」の締め切り期日延長を編集担当 2 名で検討、11 月 13 日（木）として第 8 回センター会議にて報告

・「投稿事前申し込み」の締め切り、原稿執筆の依頼、「研究論文」及び「報告」原稿の専用テンプレートを執筆予定者に送付

1 月　・各種原稿の締め切り、総項数の確定、印刷・製本費の概略把握、見積もりを依頼、編集作業の開始、確認用 PDF 版作成、執筆者への校正（1 回のみ、締め切りは 2 月 9 日）依頼

2 月　・編集担当による全体の確認、発注用 PDF 版完成形の作成、編集作業の完了、印刷・製本業者へ発注、2 月 18 日入稿予定

3 月　・「年報 2025」発行、発行報告、関係諸機関への発送作業

３．2026 年度に向けて

・「開智国際大学教職センター研究年報 2026」の発行

・「刊行規定」「投稿規定」の検討

2025 年度　教職センター　活動報告

7　　プロジェクト名〈 **介護等体験** 〉

活動内容

１．ねらい

小・中学校教諭の普通免許取得希望者に対し、介護等体験が義務付けられている。その意義を理解し、社会福祉施設や特別支援学校等での体験を通じて、教員としての資質の涵養をねらいとする。

２．実施内容

前提科目「教育学概論」「心身の発達と学習過程」「教育行政学」の単位を 2024 年度までに取得し、かつ、教育職員免許状の取得を目指す者を対象者とする。

実施時期

(1) 2025 年 1 月 15 日（水）３限、介護等体験第 1 回ガイダンスを実施した。当日は、介護等体験の登録指導のほか、体験に臨む心得を集中的に指導した。なお、当日事前連絡があり、相当の事情があると判断した学生については、後日、追加ガイダンスを実施した。

・「2025 年度版　介護等体験の手引き」の配布

・年間スケジュールの説明、介護等体験の参加登録

・「介護等体験参加登録届」「本籍地記載の公的書類」の提出、費用の納付

(2) 4 月 4 日（金）13:00 から、ガイダンスウィークにおける指導を行った。また、同日実施された学内健康診断結果を介護等体験の際に提出が必要である旨、詳細な説明を行った。

(3) 5 月 22 日（木）５限、介護等体験第 2 回ガイダンスを実施した。当日は、社会福祉施設での体験の心得を集中的に指導した。なお、この日、特別支援学校体験の日程を発表した。また、当日事前連絡があり、相当の事情があると判断した学生については、後日、追加ガイダンスを実施した。

・「受入決定通知書」「受入連絡票」の確認

・「学生プロフィール」「その他必要書類」の提出

(4) 6 月～12 月、社会福祉施設での体験（受入施設・時期は学生によって異なる）**計 50 名**が参加した。

(5) 8 月 6 日（水）14 時 40 分から、介護等体験第 3 回ガイダンスを実施した。

・「千葉県立東葛の森特別支援学校　事前資料」の確認

・各自体験日の確認（3 回にに分けて実施）1 班 18 名・2 班 17 名・3 班 17 名

(6) 9 月～11 月、千葉県立東葛の森特別支援学校での体験（参加日は学生によって異なる）**計 52 名**が参加した。

３．2026 年度に向けて

2026 年度に介護等体験を予定する学生は **107 名**と倍増する。特別支援学校体験は、現在の東葛の森特別支援学校に加え、合計 3 校を開拓する予定である。社会福祉施設・特別支援学校からも学生に関するリフレクションをいただいているので、その内容を次年度以降の学生指導につなげることが大切である。

教育実習校選定の指針（2025 年度）

【教育実習の時期・条件・実習校先】

・教育実習は、4 年次 6 月ごろを基本としている。
（初等教育専攻は 4 週間、中等教育専攻は 3 週間）
・柏市立小学校での教育実習では、「3 年次 10 日、4 年次 3 週間」（新しい教育実習）も試行している。
・初等教育専攻と中等教育専攻（中・高校）では、教育実習の進め方は異なる。
・本学の場合、初等教育専攻の場合、原則母校での実習は行わない。
・中等教育専攻（中・高校）の場合は、原則母校での実習とする。
・今後の教育実習校の依頼と配分については、教育学部『ガイドブック 2025』に示した「修得すべき科目」を履修し、その上で、日本語検定、ＴＯＥＩＣ 試験を受験していること、成績、日常性を含め判断される「大学推薦」を受けた学生に限る。誰でも自由に、母校などで教育実習を行えるわけではない。
・GPA については、2 年次修了段階で、履修科目全体で原則 2.2 以上が必要である。その上で、柏市立小学校をはじめとする公立小学校で実習をする場合は、履修科目全体で原則 2.6 以上が求められる。中学校及び高等学校で実習する場合は、専門教科に係る科目で 2.6 以上が求められる。承知して努力すること。

以下、実習先の配分について示す。

【初等教育専攻の場合】

A. 公立小学校教員採用試験を受験する予定者で、「大学推薦」を受けた者
原則、教員採用試験受験予定の都道府県にしたがって、大学が教育実習先を配分する。
・千葉県の受験希望者 ― 柏市立小学校
・東京都の受験希望者 ― 東京都中央区立小学校等での教育実習を中心に考える。
（日頃より、実習を希望する小学校でのボランティアに参加しておくとよい）
・埼玉県の受験希望者 ― さいたま市を含む公立小学校（面談を実施し、その後決定する。）
・茨城県の受験希望者 ― 面談を実施し、その後決定する。
・その他の県の受験希望者 ― 教育実習担当教員と相談の上、決定していく。
■ 教育実習とのセットとして学校ボランティアをすることが受け入れ条件となる。
（実習の効果も上がる。 ）

B. 教員採用試験を受験する予定で、A 以外（私立希望者・その他）の教育実習希望者
・系列校実習 ― 開智望小学校・開智小学校（総合部）等

C. 教員採用試験を受験しない。しかし、教員免許状だけ取得したい場合
・相談の上、実習先については別途決定したい。
・開智グループ小学校での教育実習となる可能性が高い。開智グループでのインターンシップやボランティアなどの参加が必要となる。

【中等教育専攻の場合】

A. 教員採用試験を受験する予定者

・母校実習を希望する者 ― 大学推薦が必要

・開智日本橋学園中学・高等学校 ― インターンシップ経験者で「大学推薦」を受けた者

※今後、希望調査を行う。

・柏市立中学校を希望する者 ― 大学推薦が必要

B. 私学出身で、特に私立学校での就職を希望している者は、母校（私学）実習となる。

※至急各自が、直接に母校へ連絡すること。

■ 母校での教育実習は、以下の手順で決定される。

① 母校への問合せ（1 年の春休み・2 年の夏休み等を利用して母校を訪問する）→
② 内々諾（口頭の約束）をもらう →
③ 大学へ状況報告書を提出（2 年次の 12 月）→
④ 3 年次の 4 月末までに改めて「内諾」をいただく →
⑤ 正式な「教育実習参加登録」を行う →
⑥ 大学より教育実習校へ「内諾依頼書」を発送する →
⑦ 教育実習校から受け入れ承認 →
⑧ 教育実習校の決定

C. 教員採用試験を受験しない。しかし、教員免許状だけ取得したい場合

・相談の上、教育実習先については別途決定したい。

【教育実習を履修しない学生の場合】

・教員免許状の取得を本当に考えていないか、決意は固いのかよく考えること。

・現在考えている就職先、職種がはっきりしている場合は、どんどん進めていくこと。

【留意点】

※教育実習を行うということは、大変な責任が伴う。教育実習先での生活は、大学の評価として跳ね返ってくる。この点を十分肝に銘じて、今後一層勉学に励むこと。今の学生生活の延長に何となく教育実習があるのではない。

※教員免許状を取得しようとする学生は、1 年時から単位取得や教員採用試験への準備といった、教職に向けての計画的かつ自主的な大学生活を送ることが必要である。

教職センター

【教育学部教職課程４年間の予定表】